



クニエ

ロジスティクスグループ

大室 翔史

マネージャー

サプライチェーンの格差に寄与するコンテナラウン
バル化で、貿易を取り巻くドユースだ。費用低減と言
く環境は厳しさを増している。例えば海上運賃に目が行きや
る。前回は、貿易実務の改善すが、輸送全体の中で意
善としてインコタームズの外とコスト割合の高いドレ
見直し、適切なフォワーダー選定プロセスを見直されてい
一選定のプロセスを説明したことは多い。また、国際
た。最終回はコンテナラウ 輸送業務をフォワーダーに
ドユースの活用と貿易ド 一任し、コンテナラウンド
キュメント（書類）の電子 ユースを検討したことがな
化について述べる。 い企業も見られる。

ラウンドユースの検討を

貿易実務の改善ポイント

インコタームズの見直し (※)	取引条件見直しによる 業務負担の削減
適切なフォワーダー選定プロセス (※)	標準プロセスのマニュアル化による 交渉業務属人化の削減
コンテナラウンドユースの活用	空きコンテナ輸送の削減による 国際物流コストの削減
貿易ドキュメントの電子化	貿易ドキュメントの削減による 貿易実務の効率化

(※) 第9回で紹介

テナの輸送費を低減でき
る。二酸化炭素の削減や、
港湾混雑の解消などの効果
も期待され、意義は大き
い。ラウンドユースの実現
には、大前提として輸出者
と輸入者の双方のコンテナ
をマッチングさせる必要が
あるが、うまく実施するに
は主に4つの条件がある。

うまく実施す る4つの条件

1つ目が、利用船社が同
じであること。2つ目が、
利用コンテナの規格が同じ
であること。3つ目はスケ
ジュールが一致しているこ

と。最後はコンテナと輸入者間の責任範囲につ
ナ内がきれいな状
態であること。条
件のうち特に難し
いのが、スケジュ
ールの一致だ。両
社のスケジュール
がかみ合わないケ
ースがあることに
加え、一致して
も、輸入者のコン
テナを積載した船
の入港が遅延した
場合、輸出者側のバンニン
グ時間に間に合わない事態
の発生も想定される。
この問題を解決するの
が、コンテナ蔵置機能を持
つインランドコンテナデポ
だ。輸入者はデバンニング
後、インランドコンテナデ
ポに空きコンテナを返却
し、輸出企業は近場のイン
ランドコンテナデポにある
空きコンテナを利用し、輸
入者と輸出者間のスケジュ
ールのギャップを埋め、コ
ンテナのマッチング率を高
める。ラウンドユースの実
現には、複数の関係者との
調整が必要で、特に輸出者

と輸入者間の責任範囲につ
ナ内がきれいな状
態であること。条
件のうち特に難し
いのが、スケジュ
ールの一致だ。両
社のスケジュール
がかみ合わないケ
ースがあることに
加え、一致して
も、輸入者のコン
テナを積載した船
の入港が遅延した
場合、輸出者側のバンニン
グ時間に間に合わない事態
の発生も想定される。
この問題を解決するの
が、コンテナ蔵置機能を持
つインランドコンテナデポ
だ。輸入者はデバンニング
後、インランドコンテナデ
ポに空きコンテナを返却
し、輸出企業は近場のイン
ランドコンテナデポにある
空きコンテナを利用し、輸
入者と輸出者間のスケジュ
ールのギャップを埋め、コ
ンテナのマッチング率を高
める。ラウンドユースの実
現には、複数の関係者との
調整が必要で、特に輸出者

一元的な電子書類の作成・
共有・管理を行う。レベル
3は、社内外の関係者を対
象に情報共有プラットフォーム（基盤）を通じて電子
書類を共有することで情報
の共有を簡素化する。

貿易ドキュ メントの電子化

貿易書類の電子化の推進
も必要となる。貿易書類の
電子化への対応はレベル
3が理想だが、レベル1で
も素早い効率化が可能だ。

電子化は3つのレベルに
分けられる。レベル1は業
務に必要な情報をデータ化
し、共有しやすくする。例
えばRPA（ロボットによ
る業務自動化）を活用する
ことで、書類作成に必要な
情報の抽出や定型作業を削
減できる。レベル2では、
書類作成ツールを共通化し
てほしい。（連載終わり）

輸出関係者全体をつな
ぐ新しい貿易プラットフォームが登場し、書類の電子
化により貿易実務の在り方
が変化している。

おおむろ・しょうじ 2010年米ナショナル大
経営学修士、外資系3PLフォロバイダーで複数の倉
庫の立ち上げ運営管理を経験。後に日系コンサルテ
ィングファーム勤務を経て、17年クニエ入社、現
職。物流領域での業務改革やシステムコンサルティング
を手掛ける。